

2016年5月2日

札幌チャレラジオ通信 第17回

飯村：三角山放送局をお聴きの皆さんこんにちは。札幌チャレラジオ通信です。

札幌チャレンジド講習グループのリーダーをやっています、飯村、本日のパーソナリティーを務めさせていただきます。よろしくお願いします。

札幌チャレラジオ通信は、自立を目指す障害のある人が、ITでマザル、ハタラク、拓き合う社会を創りたいとの思いで活動をしているNPO法人札幌チャレンジドが毎週月曜日のこの時間に札幌チャレンジドの活動内容をお伝えする番組です。

2016年今年1年間です放送します。

今日は私、飯村ともう一人、同じ講習グループの高橋良雄が担当します。良雄さんよろしくお願いします。

高橋：よろしくお願いします。

飯村：それからですね、この番組では毎週ゲストをお呼びしてこの場で混ざっていただいていますけども、今日のゲストはですね、パソコンボランティアで札幌チャレンジドのパソコン講習講師の岩泉美紀子さんです。

岩泉さん、こんにちは、よろしくお願いします。

岩泉：こんにちは、岩泉美紀子と申します。どうぞよろしくお願いします。

飯村：いつもはですね、ゲストの方お二人お見えになっていただいたのですが、今日はね、岩泉さんお一人です。

よろしくお願いしますね。

岩泉：はい、こちらこそよろしくお願いします。

飯村：今日はですね、私と高橋良雄さんでやってるのですが、良雄さん今日で何回目だったっけ。

高橋：たぶん3回目だと思います。

飯村：それでですね、良雄さん、ちょっと聞きたいのだけど、札幌チャレンジドはいろいろな人がね、混ざるということでやっているわけで、私たち職員ですね、講師にもチャレンジドもいます。

それと同じように職員にもチャレンジドがいてそのお一人が良雄さんだよ。

高橋：はい、そうです。

飯村：良雄さんいつも私の隣でお仕事をされてるわけですけども、どんなことやってるの。

高橋：だいたい、私は講習グループで主に講習の申し込み受付ですとか、お知らせですとか、連絡を主に、電話やメールで連絡していることが多いです。

飯村：結構ね、いろいろな方から来るじゃない。

高橋：はい。

飯村：分からないでしてくる人もいるし。

高橋：いますねえ。

飯村：逆にこれを教えてほしい、あれを教えてほしい、良雄さんが分からなかったりして。

高橋：それはよくあります。

飯村：結構対応困りますよね。勉強してる。

高橋：あまり、、、。

飯村：これからお願いしますね。

それでね、良雄さんご自身がチャレンジドということでね、よろしければご自身のどんな感じなのか、ちょっとおっしゃっていただけるかしら。

高橋：私は、身体ですね、上下肢ですか、主に右の方が、右手右足の方が主に悪いのですけれども、左もちょっと悪い感じなのですけれども、普段は松葉づえ両松葉づえで歩行しています。

冬場は表をなかなか厳しいので車椅子とかを自分でこぐのはちょっと難しいので押しってもらったりして出かけています。

飯村：冬がちょっと大変だよね。

高橋：はい。

飯村：それでね、印象としてはね、松葉づえで歩いてらっしゃるから結構ね動きは大丈夫なのかなって思ってしまうんだけども。

結構ね、たとえば事務所のなかでちょっと物を取りに行くのも松葉づえになっちゃうわけよね。

高橋：そうですね。

飯村：車椅子を使えばいいじゃんってなるのだけれども、これがなかなかね。

高橋：そうですね。私の場合ちょっと右手の方が不自由なものですから、なかなか普通の漕ぐタイプの車椅子だとちゃんと真っすぐに動くっていうものが難しくて。車椅子というわけにもなかなか行かない。

飯村：難しいだろうねえ。

かといって電動車椅子となると高価だし、これもまた、もちろんね自分で歩いてらっしゃるわけだからそれはそれでね大事にしたいと思うしね。

それでね、私自身もなかなかね。私自身の先入観とそれから見た目だけではその方の障害ってというのは結構分からないものだなんていうものを最初に、非常に思いました。

接してみないと分からないこともたくさんありますね。

高橋：同じ障害者から見ても、相手の障害はどのへんまであるとかっていうのは分からないですからね。

飯村：そうなんですよね。はい、それではですね、岩泉さん、どうもお待たせいたしました。よろしく願いいたします。

岩泉：よろしく願いいたします。

飯村：岩泉さんは札チャレにそれこそ混ざっていただいてね結構なります。

いい具合にね混ぜこぜでやっていただいているのですけれども自己紹介をね、いろいろやっていただいているのですけれども自己紹介を簡単にお願いたします。

岩泉：はい。自己紹介ですか。

飯村：そうですよ。

岩泉：今はですね、いろいろありすぎてですが、おもに IT 講習の講師とか。

飯村：IT 講習っていうのはこれ、あれですね。

岩泉：札幌市。

飯村：札幌市が実施しているパソコン教室ですよ。

これを札幌チャレンジドが札幌市から請け負ってるわけですね。

岩泉：そうですね。

飯村：その講師をやっていらっしゃいますよね。

岩泉：その講習の講師とか、ボランティア訪問ですね。

飯村：これも同じ。

岩泉：札幌市のパソコンボランティア訪問ですね。

飯村：IT サポートセンターというね。

岩泉：IT サポートセンターの事業になります。

飯村：札幌市から請け負っている札幌チャレンジドのお仕事の 1 つですね。

岩泉：そうですね。

飯村：1 軒 1 軒お邪魔してね、パソコンを教えてらっしゃるわけですね。

岩泉：はい、ご要望のあるところにお宅にお伺いしています。

飯村：あとね、そちらはもちろんだけども、いわゆる札幌チャレンジの講習、これをねいろいろお願いして無理に、私もお願いしてるのですね。

岩泉：そちらのほうもやらせていただいております。

昨年とかは、視覚の方の講習ですとかも担当させていただいておりました。

飯村：本当にいろいろやってもう何年くらいなるかしらね。

岩泉：何年になりますか。10年くらいでしょうか。

飯村：そうですね、岩泉さんと初めてお会いしたころはね、札チャレにいた人っていうのは誰いたっけ。

岩泉：私が伺ったときには、ボランティア登録して伺った時には、飯村さんと、もう一人女性の方でしたね。

飯村：はい。いましたね。小野沢さんですね。

岩泉：小野沢さんですね。今はねご主人のお仕事の関係で退職されましたけどね。とても美しい女性の方がいらっしやいました。そのお二人と事務局長が。

飯村：前にゲストで来ていただきました、佐藤 美由紀さんね。

今ね、iCare ほっかいどうですね。

岩泉：はい。事務局長で、でも産休でいらっしやらなかったのでもしばらく経ってから産休明けのときにお目にかかりましたね。

飯村：そんなような時代ですからね、本当にずいぶん昔ですね。

岩泉：はい。そうですね。

飯村：そもそも、何がきっかけでしたっけ、札幌チャレンジとは。

岩泉：広報さっぽろで、障害のある方のためのパソコンボランティア募集という募集案内を見まして、ちょうどボランティアをやりたいなあと考えていたところだったので、でも私にできるかなあとしばらく迷ったのですけれども、思い切って電話させていただいて、それで養成講座を受講して、それでもちょっと自信がなかったのですが、それでもいちおう登録させていただいて、講習会のサポートを、札幌チャレンジでやっている講習会がいろいろありましてそちらのサポートをさせていただいておりました。

飯村：自信がないながらってね気が付いてみたらねもうあれやらされる、これやらされる。

岩泉：自信がないのか、なんとかやっごらんと言われてなんとかなんとかやらせていただいておりますけれども。

飯村：はい。ほんとにね、フルに活躍していただいて私も非常に頼りにしております。

そのときの印象とですね、札幌チャレンジドはやはりこういう団体ですから、なんだかんだで普段からねパソコンが好きで、これをなんとかねいろんな人に役立ててもらいたい。ねっからパソコンが好きでっていう方が多くてね。

私はそのころ岩泉さんとねなんかちょっとそういう印象じゃなかったんだよね。というのは岩泉さんはそのころはね手話を巧みに操っていらして。

岩泉：パソコンはね、本当に大好きですとやってたのですが、自分の趣味というかやってたのですが、パソコンをもう少し勉強したいと思ってパソコン教室に通い始めたらそこが検定試験をやるところだったのでそこで一生懸命周りに若い人もたくさんいらしてそこで勉強をするのが楽しくて1つずつ資格を取っていったのですが。

飯村：じゃあ、やってたんだ。

岩泉：はい。ただそうやって自分がそれを役にたてられるか、人のために役立てられるかどうかというの自信がなかったのですが。

飯村：なるほどね。

岩泉：手話はですね、息子が中学校の時に、息子もすっかり成人してますけれども、中学校のときに父兄のための手話サークルっていうのができましてそこに参加してそれ以来ずっと手話をやっていますので。

飯村：その印象がとても強かったのですよ。いわゆるパソコンから入ってくるボランティアさんとまたちょっと違うのかなという印象だったのです。

その辺の話はですね、またねリクエストをはさんで後半でねいろいろお聞きしたいと思います。

それではですね、岩泉さんのほうからリクエスト曲をちょうだいします。

ちょっと紹介いただけますか。

岩泉：はい。リクエスト曲は、徳永英明さんの「僕のそばに」です。

飯村：はい、それではリクエストよろしくお願いします。

飯村：先ほどは岩泉さんのボランティアのきっかけが今はねすっかり成長されましたお子さんの学校のボランティアね、それがきっかけだっというふうにおっしゃっていたのですが、もうすこしその所から始まってですね、手話のことなど交えてもうすこし聞かせていただけるかしらね。

岩泉：はい。手話はそれ以来長いことずっと。

飯村：ずっとやってらっしゃるんだよね。

岩泉：手話はずっと続いていますね。

その後ボランティア初めてやったのが子育てボランティアでしたので、子供の手がかからなくなったときになにか私も子供を預かっていただいて、講習会とかに参加したことがあります。その時にとっても助かりましたので自分もそういうことができればいいなとやはり広報さっぽろに載っていたものですから、それで子育てボランティアっていうのにちょっと研修を受けて講習会の託児とかをしたりしていました。

初めてのボランティアっていうのはそれで、そのあとにもう少しまた別なものかと思っていたときにパソコンボランティアに出会ったのですけれども、手話は自分のライフワークみたいなものでずっと聴覚障害の方とずっとお付き合いは続いていますね。

飯村：その手話は最初のボランティアの学校でのサークルなんですね。

岩泉：はい。学校でのサークルに参加してまた、札幌市の手話講習会とか、手話サークルとか、地域の手話サークルとかにも参加していました。

飯村：具体的にその学校に聴覚障害のお子さんがいらしてとか、そういう感じだったのですか。

岩泉：お子さんではなくて父兄の方で聴覚障害の方がいらしてその方が講師となって私たちに教えてくださったっていう感じで、それはお付き合いも今も続いているのですけれども。

飯村：手話の技術を生かしていただいでですね、札幌チャレンジドでも聴覚の方へのねパソコンの講習を担当していただいたりですね。それからね私たちの講師の仲間にも聴覚障害の方がいらっしゃるのでその方とのコミュニケーションにもねいろいろとお世話になります。

岩泉：本当に少ししかできないのですけれど。はい。

飯村：どうですか。その難しさとかね、面白さとかいろいろあると思うのですけれども、手話のね。

岩泉：手話の、ああそうですねえ。手話はコミュニケーションの手段ですのでね、だから手話だけ覚えるというよりもやはり聴覚障害ってちょっと見えにくい障害についても皆さんに理解していただけたらいいなと思ってそういうお話もできるだけさせていただくようにしています。

飯村：この辺がね、さっきの分かりにくさ見えにくさね。相手の方のね。

岩泉：そうですね。

高橋：そうですね。

飯村：それが良雄さんの話もそうだし、こういうね、表面で見えるだけのことじゃなくてね、ちょっと踏み込んで、本当に大変なところはなんなのだろうとかね。そういうのをちゃんと気が付くのが大事だよ。

岩泉：そうですね。それぞれの障害の方ってお一人一人障害別には分けられなくて一人一人違いますよね。

その方のご様子とかいろいろな生き方とかもかかわることでしょうし、一人一人に想像力を働かせるということが必要なかなあとと思います。

飯村：そうですね、なにに障害者という一般的なものはね、あるわけではなくて、実際に私たちが接するのは一人一人のね、個々の問題なわけですよ。

岩泉：お一人お一人のパーソナリティなわけですよ。

飯村：それぞれ違うということですよ。

ついねおろそかになっちゃうのですけどね、かといってそういうものを全部理解して障害についてもきちんと学んでそれからでないとパソコンあるいはもろもろのボランティアってやれないよってということでもないわけですよ。

岩泉：違いますね。やはり一生懸命その方のことを考えてあげることが最後は必要なことであって、まずボランティアを始めていただくということが大切だと思います。

飯村：そこからどうやって学んでいただくかですよ。いろいろな方と接してね。お話してね。

岩泉：そうですね。

飯村：そんななかでね、パソコンボランティアとして、あるいは講師として札チャレのなかで活動してらして、そこでの面白さとか楽しさとかあったらね、これから多分ボランティアやりたいって人もいらっしゃるだろうからちょっと教えていただけ。

岩泉：まず私はいろいろな方にお知り合いになれることが楽しいなと思いますね。お互いにパソコンがお好きな人間同士ですし、パソコンを介していろいろな方と触れ合えることがとても楽しいと思っています。

そこで少しでも相手の方に役に立っているのならそれが自分にとっても生きがいになりますしとても嬉しいと思います。

飯村：いろいろな方と出会うということはね、いろいろな方の経験と出会うということですからね。

岩泉：そうですね。

飯村：多少なりとも自分のなかに入り込んできて混ざり合ってますね、それでまたベストの自分があるということですよ。

岩泉：はい。

飯村：いろいろここにくると意外な経験とかねそういうのがあったりしてね、そのなかにも、ラジオもあるのかな。

岩泉：そうですね。はい。こういう場に参加させていただいてなんかすごく貴重な体験をさせていただいております。

飯村：ボランティア、いろいろなことをやっていらっしゃると思うのもしですねボランティアやりたい、パソコンを教えたいという方がいらしたらですね、ぜひ札幌チャレンジドに連絡していただければいいと思いますね。

岩泉：そうですね、ぜひ。ごいっしょに。

飯村：札幌チャレンジドの電話番号を教えてくださいませんか。

高橋：札幌チャレンジドですね。011-769-0843 です。

飯村：ということで、今日はボランティアとして、そしてパソコン講師として広く活躍いただいているですね、岩泉美紀子さんにおいでいただきました。

いろいろな方いらっしゃいます。パソコンが興味があってそれをチャレンジドの方に呼びかけてもらいたいという動機の方ももちろんいらっしゃるし、それから普段ボランティアをやっててですね、もう一つパソコンという要素を加えたいという動機でおいでくださってる方もいらっしゃいますね。


全部 OK です。ぜひ興味があったら札幌チャレンジドに電話してみてください。

パソコンについていうとですね、本当に初心者の方もいらっしゃれば非常にねプロのような方もいらっしゃるけども二人とも OK。

プロの方十分力を発揮してください。それから初心者の方ね相手に教えられる方はね、つい昨日のあなたですから。自分が覚えたことをどうやって教えられるかなってそこに注意を払ってですね、自分を磨いてください。

きっと楽しい出会いがあると思います。

それではですね今日はどうもありがとうございました。また来週も私がパーソナリティで送らせていただきます。今日はどうもありがとうございました。

The background of the page is a soft, light pink color. It is decorated with numerous falling cherry blossoms and petals. The blossoms are in various shades of pink and red, with some showing the characteristic five-petaled shape and central stamens. The petals are smaller and more delicate, scattered throughout the scene. The overall effect is a gentle, romantic atmosphere typical of a spring festival or cherry blossom season.

岩泉：どうもありがとうございました。

高橋：どうもありがとうございました。

飯村：さようなら、また来週、よろしくお願ひします。